

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 9 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22560637

研究課題名(和文) トスカーナの歴史的海洋小都市と後背地域の形成に関する研究

研究課題名(英文) Research on the formation of historical small marine cities and hinterlands in Tuscany

研究代表者

野口 昌夫 (Noguchi, Masao)

東京藝術大学・美術学部・教授

研究者番号：90218305

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円、(間接経費) 990,000円

研究成果の概要(和文)：トスカーナのティレニア海沿岸とリグーリア海沿岸、さらに島嶼沿岸を含めた歴史的な小都市とその後背地域が、各々の小都市のネットワークを介して有機的な関係を保持しながら形成されてきたことと、それがイタリア半島西側の海域の制海権とも関係しつつ、各都市の領域の形成にもつながっていたことを、現地調査と史料・文献の収集、精査を4年間にわたり続け、地形、経済、政治、宗教の要因を具体的に把握することで明らかにした。

研究成果の概要(英文)：After four year's investigations and extensive surveys of historical small marine cities and hinterlands along the Tyrrhenian Sea in Tuscany and Ligurian Sea including islands, I clarified that each cities have formed themselves according to the organic network and relationship with territories of the sea. That was proved by the historical and cartographical documents to find out the determinants of geography, economy, politics and religion.

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：都市史 イタリア都市形成史 海洋都市 トスカーナ リグーリア

1. 研究開始当初の背景

- (1) イタリアでは大都市の研究の蓄積に比べ、量的に都市総体の主要部分を占めて各地域を形成させている小都市の詳細研究は、大きく立ち遅れている。
- (2) 研究開始前年度までの2つの基盤研究の対象は、トスカーナの内陸都市であったが、広大なティレニア海域に面するトスカーナの海洋小都市と後背地域の形成に視点を移して、研究を続けていく必要があった。

2. 研究の目的

- (1) 前年度までの研究・調査から得られた知見と体験を踏まえ、同等の視座と方法を基礎に、対象を新たにトスカーナのティレニア海沿岸とし、各地域の特質を明らかにする。
- (2) 次に各地域の小都市に視点を移し、その歴史と風土が都市の形態と空間の形成に関わってきた様態と過程を明確化する。
- (3) 最後に複数の歴史的小都市が、人工と自然の環境の中で固有の後背地域を形成してきた過程と要因を明らかにする。

3. 研究の方法

- (1) 最新の資料・文献は、フィレンツェ大学建築学部都市地域計画学科図書館にて複写で収集し、図面・航空写真はマイクロフィルム、データで入手する。
- (2) 史料はフィレンツェ国立文書館にて、都市建設に関わる文書、議事録、都市・地域の古図、絵図、19世紀初頭の課税用不動産台帳(カタスト)・地籍図を入手する。
- (3) 調査地では各小都市の市役所で個別に図面、資料、現行の地籍図を収集した上で、多様な高さと方向からの写真撮影と、必要な部分の実測を行う。また、城砦と市壁・市門の残存状況、広場・街路による外部空間の構成、街路をつ

くる住居の集合形式を調査し、都市図面上に記録する。

4. 研究成果

- (1) 平成22年度は、6月26日から7月2日までロンドンの王立英国建築家協会(RIBA)の図書館にて、イタリア海洋都市と後背地の歴史的形成に関する英文文献目録を作成し、その主要な文献を複写・データで入手することができた。平成23年3月15日から28日まで、フィレンツェ大学建築学部都市地域計画学科図書館にて、同分野に関する伊文文献目録を作成し、現地調査の際にすみやかに閲覧・複写が可能となるように準備することができた。また史料はフィレンツェ国立文書館とピサ国立文書館に通い、調査対象都市の文書、議事録、古図、19世紀初頭の課税用不動産登記台帳(カタスト)と地籍図を収集した。
- (2) 以上の作業と文献解読により、ティレニア海沿岸の海洋小都市は16、17世紀にトスカーナ大公国、マッサ侯国、ルッカ共和国、ピオンビーノ公国の戦略的な重要性が増大したことが判明した。また海上交易のルートと港を拠点とする海洋小都市の軍事的役割、それに連動する後背地への物流と領域化の実態が、都市ごとに概ね明らかになった。その状況が都市と地域の形成過程にどのように作用するかに関する指標も設定することができ、それによって次年度からの調査対象都市・地域を特定した。
- (3) 平成23年度は、ティレニア海の島嶼沿岸の海洋小都市を対象とした。第一次調査(平成23年10月3日~18日)では、コルシカ島の重要な海洋都市、バステリア、ポルト・ヴェッキオ、ボニ

ファチオ、アジャッチオ、カルピならびに内陸都市コルテを対象に調査し、各都市でフランス語、イタリア語の文献・資料を収集した。古代に遡るこの6都市は島の歴史と共にあり、1020年頃サラセン人の侵入に対し、ピサとジェノヴァの連合国軍が戦い勝利を収めて以来、1077～1284年はピサ共和国領、続く1284～1768年にはジェノヴァ共和国領となり、約700年にわたりイタリアの領土だったが、1768年以降はフランス領となる。変転する支配が海洋都市と後背地域の形成に重層的に影響をおよぼしている実態を現地調査によって明らかにした。

- (4) 第二次調査(平成24年1月19日～2月1日)はエルバ島を対象とし、重要な海洋都市、ポルトフェライオ、リオ・マリーナ、ポルト・アズッコ、マルチャーナ・マリーナ、マリーナ・ディ・カンポを調査した。後背都市の外港都市として形成された場合と独立した海港都市として形成された場合に分かれることが判明した。リオ・マリーナの後背都市はリオ・ネレルバ、マルチャーナ・マリーナの後背都市はマルチャーナ、マリーナ・ディ・カンポの後背都市はカンポ・ネレルバであり、16世紀はそのすべてをスペインのプレシディ国(警備国家)が支配していた。この対になった3都市は内陸と海上交易を結ぶ産業基盤を築いていたが、一方、独立した海港都市ポルト・フェライオはトスカーナ大公国が軍事的目的で築いたものであった。
- (5) 平成24年度は、トスカーナ州に隣接するリグーリア州の海洋小都市を対象とし、第一次調査(平成24年9月24日～10月6日)ではフィレンツェ大学建築学部とジェノヴァ大学建築学部の図

書館にて、リグーリア海沿岸の海港都市と後背都市についての史料、資料を収集・精査した。これまでの調査研究の論点とその後の展開について、フィレンツェ大都市・地域計画学科のジャンカルロ・パーバ教授に、数回にわたり研究指導を受けることができた。

- (6) 第二次調査(平成25年3月13日～29日)では、トスカーナ沿岸部から北西に続くリグーリア海の歴史的海洋小都市を調査した。フランスへと続くジェノヴァの西側の小都市は、主としてジェノヴァ共和国が海に突き出した岬を要塞化し、その後の小都市形成の起源となる現象が多くみられたが、一方で内陸部の丘上や平地に市壁を備えた中世以来の小都市が形成されていることは今後の課題としたい。東側では地勢が大きく異なり、要塞化のみならず漁業を生業とする歴史的海港都市も残っていると共に、19世紀以降の歴史的リゾートとして発展している現象が西側より顕著であることが判明した。
- (7) 平成25年度は今後の研究の展開を考え、トスカーナ、リグーリア以外のイタリア半島の海洋都市を調査し、これまでの研究と比較して新たな研究視点を模索した。第一次調査(平成25年10月4日～17日)はサルデーニャ北西部の3海洋都市、アルゲロ、ポルト・トッレス、カステル・サルドと内陸都市サッサリを集中的に調査した。サルデーニャ出身のフィレンツェ大学都市・地域計画学科のジャンカルロ・パーバ教授の同行をお願いし、現地での研究指導を数回にわたり受けることができた。特にアルゲロでは、スペイン・カタルーニャの移民が都市を再構成した事実が判明し、地中海スケールの移民という新たな指標を認識した。また、

サッサリ大学に招聘され、研究の一部をイタリア語で発表する機会を得た。

- (8) 第二次調査（平成 26 年 1 月 27 日～2 月 11 日）では同じく比較研究としてシチリア南東部の海洋都市、北からミラツォ、タオルミーナ、カターニア、シラクーサを調査した。またさらに後背地との関係を探るため、内陸のラグーサ、モディカ、ノートを調査した。後者では 17 世紀の大地震で壊滅した後の復興再生に向けた都市計画が地域形成に大きく関与し、海洋都市とのネットワークが再編された事実が明らかになった。自然災害という視点は歴史的に集中豪雨が多発してきたリグーリアの海洋小都市の変化を考える上でも重要であることを再認識した。両調査とトスカーナ、リグーリアとは歴史的、民族的文脈が異なるため、一概に比較できないが、海洋小都市と後背地域の形成過程の分析に関する貴重な論点を得ることができた。
- (9) 以上の成果を国内外の従来に対する研究に対する特質は以下の点にある。

従来、歴史的に重要な都市が地域の形成とは無関係に研究対象とされてきたが、本研究では地形、経済、政治、宗教の観点から固有の地域を特定した上で、その中に点在する複数の小都市を研究対象として等価に扱っている。

従来は小都市を規模、形態、歴史的な重要度から研究対象とし、地域から自立した存在として捉える傾向が強かったが、本研究では対象とする複数の小都市を固有の地域を形成させる複数の核として捉えている。

従来は専分化して研究されてきた、地域と海域を構成する複数の海洋

小都市の航行ルート、制海領域、後背地域の農地、街道といった人工環境と、海洋小都市の周辺海域、半島、島嶼、岬、湾岸、河口、後背地の地勢のような自然環境とを含めた総合的な地域形成史として捉えている。

10) 今後の展望としては、ティレニア海沿いのまだ多くの未調査の歴史的海洋小都市と内陸小都市が形成する地域があり、同等の視座で調査を続けていく所存である。特にトスカーナに隣接するリグーリアは、ジェノヴァ共和国が支配した数多くの重要な海洋小都市がネットワークを形成して地域を形成してきたと考えられ、各々が制海権や交易ルートを重要なファクターとして地域を制御してきたはずである。また、リグーリア沿岸の海洋都市は、これまで重点を置いてきたトスカーナ沿岸の海洋小都市とは陸続きであり、また島嶼沿岸の海洋小都市とは僅かな距離で海を介して繋がっているため、今後は地域形成のみならず、海域の形成と領域化という新たな視点を持ち込みたいと考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 1 件)

Masao Noguchi, 'Formation of Historical Small Cities and Territory in Tuscany - The Magra Valley in Linigiana', Space, Culture and Regeneration of Cities in History - From the Viewpoint of International Comparison of Territory and Infrastructure, Proceedings of

International Symposium ,
Edited by Society of Urban and
Territorial History, 2012 年, pp.
82 -89, 査読有 .

〔学会発表〕(計 5 件)

Masao Noguchi,
‘Insedimento e casa rurale
tradizionale nel territorio’,
Paesaggio occidentale orientarle
– Dialogo sull’architettura e le
citta in Italia e in Giappone,
国際シンポジウム招待講演,サッ
サリ大学,2013 年 10 月 10 日 .

Masao Noguchi, ‘Formation of
Historical Small Cities and
Territory in Tuscany - The
Magra Valley in Lunigiana’,
Space Culture and Regeneration
of Cities in History - From the
Viewpoint of International
Comparison of Territory and
Infrastructure, 国際シンポジウ
ム招待講演,東京大学,2012 年 12
月 3 日 .

Masao Noguchi, ‘Short Coments
on the Six Lectures by Japanese
Side’, Water, Risk and Climate and
Human Settlements
– Architectural and Environmental
Cultural Landscape and
Sustainable Habitats Design, 国際
シンポジウム招待講演,フィレン
ツェ大学,2012年1月27日 .

野口昌夫、「16 世紀フィレンツェ
におけるヴァザーリの都市構想」
ウフィツイと宮廷建築家ジョルジ
ョ・ヴァザーリ、国際シンポジウ
ム招待講演、イタリア文化会館、
2011 年 9 月 27 日 .

野口昌夫、「イタリアの歴史的都

市」日本とイタリアの歴史的都市
その保存と変容、Un Confronto
sulle Citta Storiche tra Italia e
Giappone – Conservazione e
Trasformazione,、国際シンポジウ
ム招待講演、東京芸術大学（ボロ
ーニャ大学と共催）2010 年 4 月
10 日 .

〔図書〕(計 3 件)

野口昌夫編著、白水社、「都市設計
家ヴァザーリ - フィレンツェに
おける都市と建築の作品」45 頁
- 102 頁、『ルネサンスの演出家ヴ
ァザーリ』2011 年、354 頁 .

野口昌夫編著、日伊協会監修、丸
善出版、「フィレンツェの都市と建
築」54 頁- 55 頁、「イタリア中世
の都市コムーネ」68 頁 - 69 頁、
『イタリア文化事典』2011 年、
900 頁 .

野口昌夫共著、東大出版会、「君主
制フィレンツェの都市改造」125
頁 - 153 頁、吉田伸之、伊藤毅編
『伝統都市 2 権力とヘゲモニ
ー』、2010 年 .

6 . 研究組織

(1) 研究代表者 野口昌夫

(NOGUCHI, Masao)

東京芸術大学・美術学部・教授

研究者番号: 90218305